

2008 年 3 月号 目次

【トピックス】

- 麻しん(はしか)情報 - 予防接種について - 1
- 市販 DPD 試薬を使用して遊離残留塩素を測定する場合の注意 4
- アレルギー物質を含む食品の検査結果 7

【感染症発生動向調査】

- 感染症発生動向調査委員会報告 2月 9
- 感染症発生動向調査における病原体検査 2月 12

【検査結果】

- 由来別病原菌検出状況 2月 13

【情報提供】

- 衛生研究所 WEB ページ情報(その48) 14

麻疹(はしか)情報

— 予防接種について —

2008年1月1日から、麻疹は感染症法の5類感染症の全数把握疾患になり、診断した医師すべてに届出が義務づけられました。

横浜市内の麻疹報告者数は、すでに500人を超えており、約半数が予防接種を受けていません。

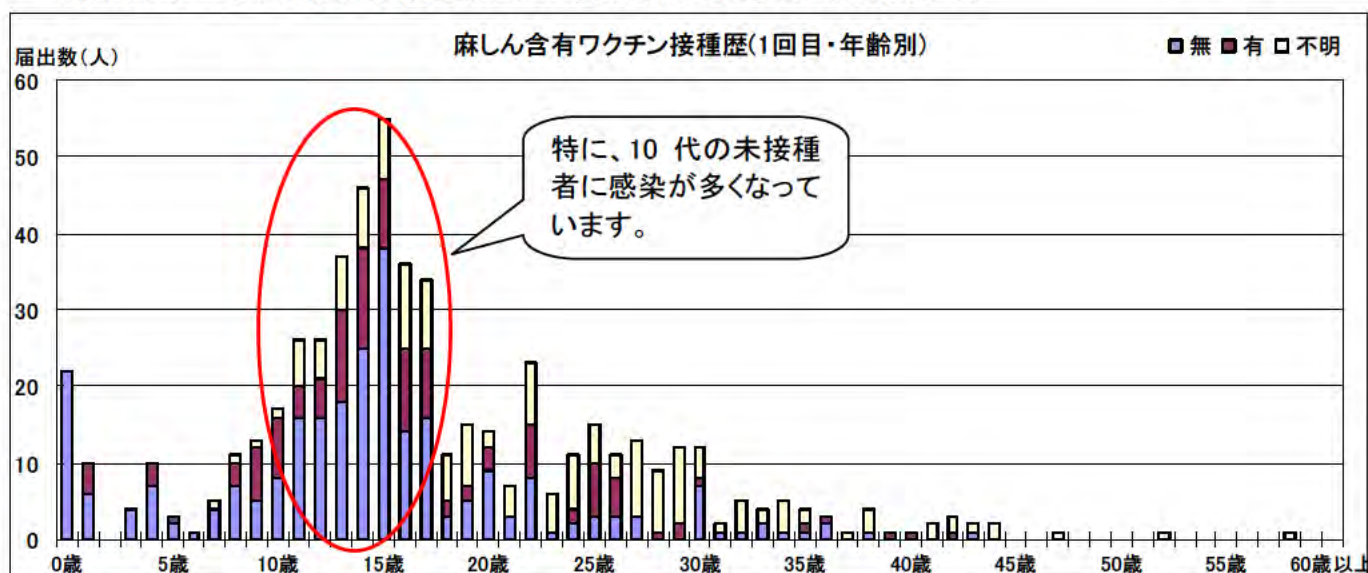
他の自治体と比べ、麻疹の発生数が非常に多くなっており、早急かつ、徹底した対策が必要なことから、さらなる麻疹対策として、平成20年3月21日から麻疹予防接種の未接種・未り患の方を対象に、市費負担による予防接種(任意接種)を実施します。

発症者が10歳代のワクチン未接種者に集中していることから、接種対象は1歳～高校3年生に相当する年齢で、麻疹予防接種を1度も受けておらず、麻疹にり患していない方(定期予防接種対象者を除く)です。

予防接種が済んでいない方は、新学期が始まる前に、早めに接種しましょう！

麻疹(はしか)流行に伴う横浜市の緊急対策について (http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/oshirase/m_tyui.html)

横浜市における年齢別患者報告数および予防接種歴(3月12日届出分まで)



横浜市内の区別患者数等の詳細は、こちらをご覧ください。

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles-sokuhou.pdf

神奈川県などを中心に10～20歳代に麻疹が流行しています。

全国および横浜市近隣の麻疹患者届出数

3月12日現在

	第1週 1/1-1/6	第2週 1/7-1/13	第3週 1/14-1/20	第4週 1/21-1/27	第5週 1/28-2/3	第6週 2/4-2/10	第7週 2/11-2/17	第8週 2/18-2/24	第9週 2/25-3/2	第10週 3/3-3/9	計 1/1-3/9
全国	87	155	245	268	527	457	556	468	500	392	3,655
東京都	11	16	26	23	46	43	61	76	84	53	439
神奈川県	40	60	95	106	179	174	230	160	202	137	1,383
横浜市(再掲)	17	20	38	37	54	64	92	58	74	68	522
川崎市(再掲)	1	7	2	9	7	8	7	2	10	5	58
県域(再掲)	22	33	55	60	118	102	131	100	118	67	806
横須賀市(再掲)	14	22	40	46	65	62	83	50	55	34	471

＜ワクチン接種について＞

2007年、大学生の間で麻しんが流行したのは、1990年代以降、患者発生数が減少したことにあります。ワクチンを接種しても、麻しんウイルスに接する機会がないと、免疫が徐々に落ちていくためです。

そのため国は2006年に従来の1歳時に加え、6歳で2回目のワクチン接種の機会を設けました。

この対策からもれた10歳代については、2008年4月から5年間の期限で中1、高3で、2回目接種を行うことになりました。

2012年「麻しん排除」に向けて、小・中・高等学校世代が全て、2回の接種を完了する事を目指しています。

しかし、18歳から20歳代は、どちらの対策からも漏れてしまっており、大学での対応が必要とされています。

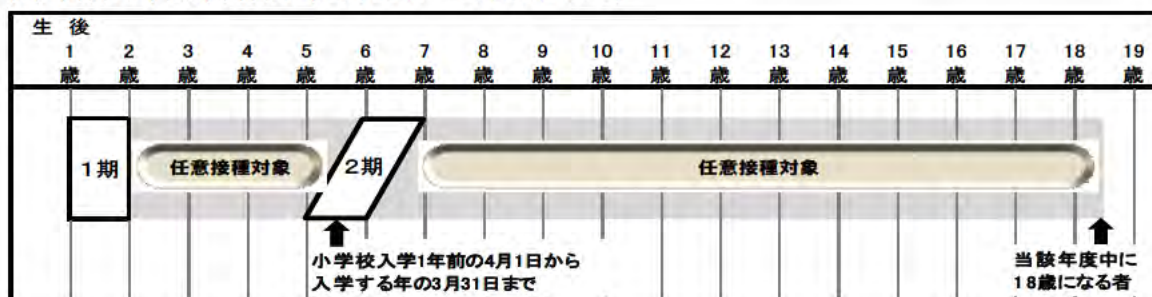
ワクチン接種は、自分を守るだけではなく、自分が感染源となるのを防ぐ社会防衛の意味でもあるという自覚が大切です。

予防接種が済んでいない方は、春休みのうちに接種を受け、新学期に備えましょう！

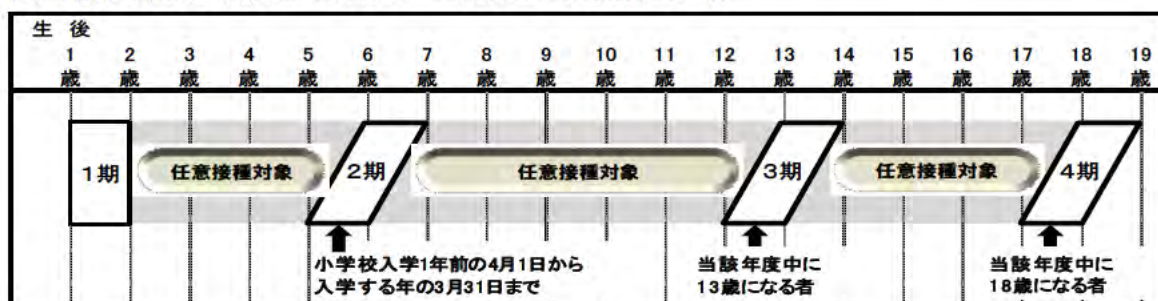
＜横浜市での麻しん・風しん予防接種（国の制度に上乘せする横浜市の対応）＞

横浜市に在住する1歳～高校3年生に相当する年齢で、麻しん予防接種を受けておらず、り患もしていない方への市費負担による予防接種（任意接種）を行います。

(1) 平成19年度（平成20年3月21日～3月31日まで）



(2) 平成20年度（平成20年4月1日～平成21年3月31日まで）



年齢別麻しんワクチンの2回接種対象

2008年3月末現在の年齢		
～7歳	従来の1歳に加え、6歳の定期接種(2006年開始)で、2回接種を終了	
8～12歳	13歳時の定期接種で2回接種を終了	2008～2012年度までの時限措置
13～17歳	18歳時の定期接種で2回接種を終了	
18歳～	自己負担による任意接種	

<2008～2012年度 麻しん・風しんワクチン定期予防接種対象者>

<第1期>:生後12か月以上24か月未満の者

<第2期>:5歳以上7歳未満の者であって、小学校入学前の1年間

	西暦	和暦	
2008年度	2002/4/2～2003/4/1生	平成14/4/2～平成15/4/1生	平成20年度
2009年度	2003/4/2～2004/4/1生	平成15/4/2～平成16/4/1生	平成21年度
2010年度	2004/4/2～2005/4/1生	平成16/4/2～平成17/4/1生	平成22年度
2011年度	2005/4/2～2006/4/1生	平成17/4/2～平成18/4/1生	平成23年度
2012年度	2006/4/2～2007/4/1生	平成18/4/2～平成19/4/1生	平成24年度

<第3期>:中学1年生に相当する年齢の者(年度内に13歳になる者)

	西暦	和暦	
2008年度	1995/4/2～1996/4/1生	平成7/4/2～平成8/4/1生	平成20年度
2009年度	1996/4/2～1997/4/1生	平成8/4/2～平成9/4/1生	平成21年度
2010年度	1997/4/2～1998/4/1生	平成9/4/2～平成10/4/1生	平成22年度
2011年度	1998/4/2～1999/4/1生	平成10/4/2～平成11/4/1生	平成23年度
2012年度	1999/4/2～2000/4/1生	平成11/4/2～平成12/4/1生	平成24年度

<第4期>:高校3年生に相当する年齢の者(年度内に18歳になる者)

	西暦	和暦	
2008年度	1990/4/2～1991/4/1生	平成2/4/2～平成3/4/1生	平成20年度
2009年度	1991/4/2～1992/4/1生	平成3/4/2～平成4/4/1生	平成21年度
2010年度	1992/4/2～1993/4/1生	平成4/4/2～平成5/4/1生	平成22年度
2011年度	1993/4/2～1994/4/1生	平成5/4/2～平成6/4/1生	平成23年度
2012年度	1994/4/2～1995/4/1生	平成6/4/2～平成7/4/1生	平成24年度

※ 2000/4/2～2001/4/1(平成12/4/2～平成13/4/1)生まれの者および2001/4/2～2002/4/1(平成13/4/2～平成14/4/1)生まれの者は、それぞれ2006(平成18)年度および2007(平成19)年度の第2期定期予防接種対象者でした。

<参考資料>

- ・ 麻疹(はしか)について
(http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/measle1.htm)
- ・ 麻しんの排除に向けて(横浜市衛生研究所検査情報月報2007年12月号)
(http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection_inf/200712/measles-haijo.pdf)
- ・ 麻しん情報(横浜市衛生研究所検査情報月報2008年2月号)
(http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/inspection_inf/200802/measles.pdf)
- ・ 2012年麻疹排除に向けて(国立感染症研究所)
(<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>)
学校等における対応等各種ガイドライン等が載っています。
15分間のわかりやすいビデオも見ることができます!

市販DPD試薬を使用して遊離残留塩素を測定する場合の注意

《この記事は削除されました》

アレルギー物質を含む食品の検査結果

アレルギー物質を含む食品による健康被害が多く見られることから、平成13年4月、アレルギー物質(特定原材料)を含む食品に表示が義務付けられました。現在、特定原材料として卵、乳、小麦、そば、落花生の5品目が指定されています。19年度は6月に、食品専門監視班が主に卵や乳によるアレルギーがある人のために製造された食品を市内の小売店から収去及び通信販売で買上し、当所にて「卵」及び「乳」を検査しました。また、9月に、食品専門監視班及び区福祉保健センターが市内の小売店から収去した小麦アレルギー対応食品について、「小麦」を検査しました。その検査結果を報告します。

1 「卵」及び「乳」の検査

「卵」及び「乳」の検査には、主に卵または乳不使用等の表示のある食品が16検体搬入されました。その内訳として、「卵」の検査は、クッキーやせんべい等の菓子、パン、雑炊及びカレーのレトルト食品等について合計9検体、「乳」の検査は、菓子、レトルト食品等合計7検体を行いました。

検査方法は厚生労働省通知に準拠し、「卵」、「乳」ともにそれぞれ2種類のキットを用いてELISA法によるスクリーニング試験を行いました。

検査結果はいずれも陰性(10ppm未満)でした(表1、2)。今回検査したアレルギー対策向けの食品は、いずれも適正に製造及び表示がされていたものと考えられます。

表1 「卵」の検査結果 (スクリーニング試験)

食品	検体数	陽性数
菓子(クッキー、せんべい等)	3	0
パン	2	0
レトルト食品	2	0
調味料(ドレッシング)	1	0
かまぼこ	1	0
合計	9	0

表2 「乳」の検査結果 (スクリーニング試験)

食品	検体数	陽性数
菓子(クッキー、せんべい等)	3	0
レトルト食品	2	0
調味料(ソース)	1	0
かまぼこ	1	0
合計	7	0

2 「小麦」の検査

「小麦」の検査は、主に小麦不使用等の表示のある食品を計32検体検査しました。

検査方法は厚生労働省通知に準拠し、はじめに小麦の2種類のキットを用いてELISA法によるスクリーニング試験を行い、次に陽性(10ppm以上)となったものは、PCRを用いて確認試験を行いました(詳しくは2003年7月号のアレルギー物質を含む食品の検査(その1)を参照ください)。

「小麦」のスクリーニング試験結果は、3検体(十割そば1、あわ麺1、米麺1)が陽性で、それ以外はすべて陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 「小麦」の検査結果（スクリーニング試験）

食品	検体数	陽性数
菓子(クッキー、せんべい等)	11	0
めん(十割そば ^{*1} 、あわ麺、米麺等)	9	3
レトルト食品	4	0
調味料(しょうゆ、みそ等)	3	0
パン	2	0
ベビーフード	2	0
米粉	1	0
合計	32	3

スクリーニング試験が陽性となった3検体についてPCRによる確認試験を行ったところ、十割そば1検体が陽性、あわ麺1及び米麺1検体の2検体が陰性でした。このようなスクリーニング試験と確認試験の結果の差異としては、感度や試験法の対象測定物質の違いなどが考えられます。

なお、スクリーニング試験陽性の3検体について、健康福祉局を通じて製造所を管轄する自治体に対し、小麦使用の有無及び製造工程における小麦のコンタミネーションの可能性等を照会しました。調査の結果、十割そば及び米麺は、原材料の使用ではなく、製造工程中のコンタミネーションによるものと推定されました。また、あわ麺については、原材料由来の偽陽性^{*2}の可能性が高いと考えられました。

^{*1} 十割(とわり、じゅうわり)そば…別名、生そば(きそば)。小麦粉は用いず、そば粉のみで作られるそばのこと。

^{*2} 偽陽性…スクリーニング試験に用いた小麦キットは、小麦以外にも穀類(あわ、ひえ等)で交差性があり、数ppm～十数ppmの数値を示す場合があります。

【 食品添加物担当 】

感染症発生動向調査委員会報告 2月

今月のトピックス

麻疹は2008年1月から全数把握疾患となりました。市内ではすでに300例以上の報告があり、小学校入学前の予防接種(MRワクチン第2期接種)の徹底をお願いします。

インフルエンザは減少傾向。タミフル耐性株による地域内での小流行が見られるも終息。

【患者定点からの情報】

市内の患者定点は、小児科定点:84か所、内科定点:55か所、眼科定点:15か所、性感染症定点:26か所、基幹(病院)定点:3か所の計183か所です。なお、小児科定点は、インフルエンザと小児の13感染症とを報告します。内科定点はインフルエンザのみを報告します。従ってインフルエンザは、小児科と内科で、計139定点から報告されます。

平成20年1月21日から平成20年2月24日まで(平成20年第4週から第8週まで。ただし、性感染症については平成20年1月分)の横浜市感染症発生動向評価を、標記委員会において行いましたのでお知らせします。

全数把握の対象

<麻疹>

1月から感染症法の5類感染症の全数把握の対象となり、診断した医師すべてに届出が義務付けられました。

(国立感染症研究所ホームページ)

<http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/index.html>

横浜市では、第8週(2/18~24)までの報告数は372例で、全国の報告数2706の約14%と、人口に比して非常に多くなっています。年齢別では10代が過半数を占めています。また、約半数が予防接種未接種でした。2012年麻疹排除に向けて、予防接種の徹底が最も大切です。小学校入学前の期については、3月末の接種期限が迫っています。

横浜市の詳細については、「麻疹(はしか)の流行について(4)」

http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/measles.pdf をご覧ください。

〈麻疹の排除に向けて〉

2008年1月から、風しんとともに全数報告疾患として、発生状況等を詳細に把握。

2006年度より、麻疹単独ワクチンの1回接種から、麻疹風しん混合ワクチンによる2回接種に変更。

2008年4月より5年間、中1及び高3相当の年齢への定期接種を実施。

<レジオネラ症>

横浜市では、昨年は28例と、前年の4倍の報告がありました。今年は、1月に3例、2月に1例の報告があります。全国では、昨年は665例、今年は第8週までの累計が119例となっています。

循環式浴槽やジャグジーを持つ温泉施設などをよく利用している異型肺炎患者の場合には、レジオネラ症の検索が重要と考えられます。

なお、衛生研究所と区福祉保健センターでは、原因究明と感染拡大の防止を目的に喀痰検査や施設調査、遺伝子検査を行っています。

その他の疾患については、横浜市感染症発生動向調査全数情報をご覧ください。

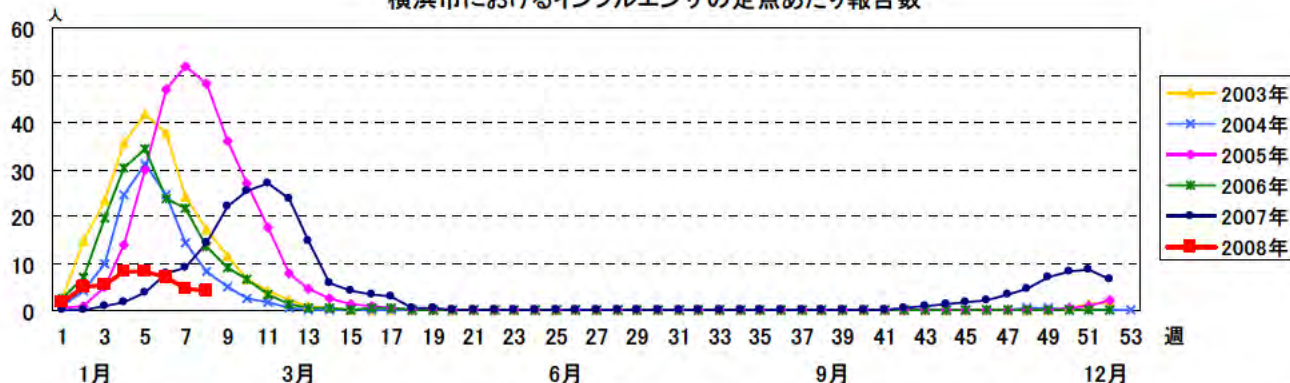
http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/report.html#zensu

定点把握の対象

<インフルエンザ>

年末年始にかけて減少し、第2週以降は再び増加しましたが、第5週をピークに第8週は定点あたり3.92と減少傾向になってきました。区別では、注意報レベルの「10」を超えている区はなく、都筑(9.0)、磯子(9.0)、港北(8.2)で多くなっています。川崎市は5.58、神奈川県(横浜、川崎を除く)は5.46と、どちらも横浜市より高い値でした。

横浜市におけるインフルエンザの定点あたり報告数



全国的には、ここ数年間は大きな流行が見られなかったAソ連型(AH1)が多く検出されています。横浜市の検査結果では、当初は今シーズンから使用されているワクチンと類似株でしたが、抗原変異したウイルス株が増加しつつあります。また、2008年に入ってから、A香港型(AH3)、B型もわずかですが、検出されています。

最新の情報については、http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/sokuhou.pdf をご覧ください。

第5週の検体から、タミフル耐性インフルエンザウイルス(Aソ連型)が分離されました。同一区内であったため、小地域における一時的な流行があったと考えられましたが、その後は認められず、流行は終息しました。詳細は http://www.city.yokohama.jp/me/kenkou/eiken/infection_inf/2008nen/tamiflu-r.pdf をご覧ください。

<感染性胃腸炎>

年末にかけて多く報告されましたが、1月以降は横ばいが続いています。第8週は、定点あたり10.88と、増加しました。川崎市は17.13、神奈川県(横浜、川崎を除く)は12.36とどちらも横浜より高くなっていますし、今後の動向にはまだ少し注意が必要です。

病院、施設、学校等におけるノロウイルス感染の集団発生もあるため、職員の健康管理についても、十分注意を払う必要があります。

<RSウイルス感染症>

例年、インフルエンザに先がけて流行が見られます。今シーズンは、インフルエンザの流行がかなり早く始まりましたが、RSウイルス感染症は、例年通り12月に多く報告されました。1月に入ってから報告が続き、第5週に11人と増えていますが、第3週以降は減少傾向で、第8週の報告は1人でした。

病原体定点から採取された検体からは、衛生研究所で、12月に10例、1月に5例、2月に8例が、PCR法で確認されました。うち、12月の1例と1月の2例、2月の5例はAソ連型(AH1)インフルエンザとの重複感染、2月の1例はA香港型(AH3)インフルエンザとの重複感染でした。

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

第2週以降増加傾向が続き、第8週は定点あたり1.97と、昨年、一昨年に次いで高い値になっています。瀬谷(9.0)、磯子(5.5)、青葉(3.7)、都筑(3.3)で発生が目立ちます。昨年、一昨年とも、2月～3月にかけて高い値が続きました。川崎市は2.81、神奈川県(横浜、川崎を除く)は2.92と、どちらも横浜より高くなっていますので、今後の動向に注意が必要です。

< 流行性角結膜炎 >

港北、泉で増加しており、成人例が目立ちました。感染力が強く、患者の眼脂やウイルスに汚染された手指、タオル、器具などに接触して感染するため、注意が必要です。

< 性感染症 >

性感染症は、診療科でみると産婦人科系(産婦)の11定点、および泌尿器科・皮膚科系(泌・皮)の15定点からの報告に基づき、1か月単位で集計されています。

性器ヘルペスウイルス感染症の1月の報告では、男性の2割、女性の3割が、60歳以上となっており、再発例が報告されている可能性もあります。また、女性の淋菌感染症が3例ありました。

【病原体定点からの情報】

市内の病原体定点は、小児科定点：8か所、インフルエンザ(内科)定点：5か所、眼科定点：1か所、基幹(病院)定点：3か所、の計17か所を設定しています。検体採取は、小児科定点8か所を2グループに分け、4か所ごと毎週実施し、インフルエンザ定点は特に冬季のインフルエンザ流行時に実施しています。眼科と基幹定点は、対象疾患の患者から検体採取ができた時に随時実施しています。

衛生研究所から

< ウイルス検査 >

2008年2月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点41件(鼻咽頭ぬぐい液)、内科定点13件(鼻咽頭ぬぐい液)、基幹定点4件(髄液)、眼科定点は1件(眼脂)でした。患者の臨床症状別内訳は、小児科定点は気道炎36人、発熱のみ3人、けいれん1人、発疹1人、内科定点は気道炎7人、関節・筋肉痛4人、発熱のみ2人、基幹定点は無菌性髄膜炎1人、ウイルス性感染症1人、けいれん重積2人、眼科定点は角結膜炎1人でした。

3月10日現在、小児科定点の気道炎患者19人、発熱のみの患者2人、けいれん患者1人からインフルエンザウイルスAH1型、気道炎患者2人、発熱のみの患者1人からインフルエンザウイルスAH3型、気道炎患者1人からインフルエンザウイルスB型、気道炎患者1人からアデノウイルスが分離されています。また、内科定点の気道炎患者4人、関節・筋肉痛の患者1人、発熱のみの患者2人からインフルエンザウイルスAH1型、気道炎患者1人からインフルエンザウイルスB型が分離されています。

これ以外に、PCR検査では、小児科定点の気道炎患者4人、内科定点の気道炎患者2人と発熱のみの患者2人からRSウイルス、小児科定点の発疹患者1人から麻疹ウイルスの遺伝子が検出されています。RSウイルスの遺伝子が検出された患者8人のうち、小児科定点の気道炎患者3人、内科定点の気道炎患者1人と発熱のみの患者2人はインフルエンザウイルスAH1型、小児科定点の気道炎患者1名はインフルエンザウイルスAH3型が分離陽性でした。

その他の検体は引き続き検査中です。

< 細菌検査 >

2月の感染性胃腸炎関係の受付は13菌株で起因菌は検出されませんでした。溶血性レンサ球菌咽頭炎の検体の受付は7件でA群溶血性レンサ球菌が7件から検出されました。髄膜炎から *Haemophilus influenzae* B型が、1件分離同定されました。

感染症発生動向調査における病原体検査 2月

感染性胃腸炎

2008年2月

検査年月	2月		2008年1~2月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	13		19	
菌種名				
サルモネラ				
腸管病原性大腸菌				
毒素原性大腸菌				
組織侵入性大腸菌				
腸管出血性大腸菌				
腸管凝集性大腸菌				
黄色ブドウ球菌				
カンピロバクター				
不検出	13		19	

呼吸器感染症等

2008年2月

検査年月	2月		2008年1~2月	
定点の区別	小児科	基幹	小児科	基幹
件数	7	1	12	1
菌種名				
A群溶血性レンサ球菌	T1	1	1	
	T4	3	3	
	T6			
	T12	2	2	
	T25		2	
	T28	1	2	
	T 型別不能			
B群溶血性レンサ球菌				
G群溶血性レンサ球菌				
インフルエンザ菌				
パラインフルエンザ菌				
黄色ブドウ球菌				
髄膜炎菌		1		1
インフルエンザ菌				
不検出	0		2	0

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

[細菌担当]

由来別病原菌検出状況 2月

2008年2月

検体の種類	分離菌株数					
	ヒト		環境		食品	
	糞便、尿、咽頭ぬぐい液、 喀痰等 菌株による依頼を含む		河川水、河川底泥等		食品、食品容器等のふきとり、 飲料水等	
	2月	1-2月	2月	1-2月	2月	1-2月
コレラ O - 1						
O - 1以外					1	
赤痢菌 A						
B						
C						
D		1				
その他						
チフス菌		1				
パラチフスA菌	1	1				
その他のサルモネラ						
O4群						
O7群						
O8群						
O9群						
O3,10群						
その他						
腸管病原性大腸菌						
毒素原性大腸菌						
組織侵入性大腸菌						
腸管出血性大腸菌		2				
腸管凝集性大腸菌						
腸炎ピブリオ						
黄色ブドウ球菌	1*	2				
カンピロバクター		1				
ウェルシュ菌	6**	6			1**	1
A群溶血性レンサ球菌	7	10				
B群溶血性レンサ球菌						
レジオネラ菌	1	1				
その他	1***	1				
取り扱い件数	103		0		60	

* メチシリン耐性黄色ブドウ球菌

** ウェルシュ菌 Hobbs 4型による食中毒事例

*** *Haemophilus influenzae*B型による髄膜炎からの分離株

【細菌担当】

衛生研究所WEBページ情報(その48)

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、1998年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を市民にわかりやすく提供しています。

今回は、2008年1月のアクセス件数、アクセス順位及び2008年2月の電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については行政運営調整局IT活用推進課から提供されたデータを基に集計しました。

1 利用状況

(1) アクセス件数 (2008年1月)

2008年1月の総アクセス数は、251,176件でした。主な内訳は、感染症59.4%、食品衛生18.8%、保健情報6.1%、生活環境衛生1.9%、検査情報月報6.7%でした。

(2) アクセス順位 (2008年1月)

1月のアクセス順位(表1)は、「マイコプラズマ肺炎について」が第1位でした。

2位が「RSウイルスによる気道感染症およびパリビズマブ(Palivizumab)について」、3位が「EBウイルスと伝染性単核症について」でした。

マイコプラズマ肺炎が今年も流行の兆しを見せています。

全国的には2007年ほどでの流行ではありませんが、定点あたりの報告数は過去10年間において、2番目に高い値で推移しています。

冬の感染症である「感染性胃腸炎」に関する記事が4位で、関心が高かったものと思われます。

* ヒト化抗RSウイルスモノクローナル抗体であり、乳児および幼児におけるRSウイルス感染による重篤な下気道疾患の発症抑制を効能・効果とする薬。

パリビズマブ(遺伝子組換え)は成分名で、シナジスが商品名

表1 2008年1月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	マイコプラズマ肺炎について	7,771
2	RSウイルスによる気道感染症および パリビズマブ(Palivizumab)*について	6,854
3	EBウイルスと伝染性単核症について	6,733
4	ロタウイルスによる感染性胃腸炎について	5,383
5	食品衛生情報 ちょっと専門的なデータシート	4,210
6	サイトメガロウイルス感染症について	4,178
7	百日咳について	3,223
8	大麻(マリファナ)について	3,116
9	性器クラミジア感染症について	3,111
10	トキソプラズマ症について	3,097

データ提供:行政運営調整局IT活用推進課

(3) 電子メールによる問い合わせ (2008年2月)

2008年2月にホームページのお問い合わせフォームを通していただいた電子メールによる問い合わせの合計は、12件でした(表2)。

表2 2008年2月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数	回答部署
タミフル耐性インフルエンザウイルスについて	2	衛生研究所
ホームページのリンクについて	1	衛生研究所
多汗症について	1	衛生研究所
マンションの排水管について	1	衛生研究所
市販のペットボトルの水質検査について	1	衛生研究所
溶血性レンサ球菌について	1	衛生研究所
メッキについて	1	衛生研究所
ぎょう虫卵検査について	1	衛生研究所
トキソプラズマ症について	1	衛生研究所
ホームページの記事の引用について	1	衛生研究所
食中毒症状の報告の有無について	1	衛生研究所

2 追加・更新記事 (2008年2月)

2008年2月に追加・更新した主な記事は、11件でした(表3)。

表3 2008年2月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
2月4日	感染症に気をつけよう	更新
2月12日	トリコテセン-マイコトキシン(T-2マイコトキシンなど)について	更新
2月14日	「麻しん発生連絡票」	追加
2月14日	「遺伝子組換え食品の検査」	更新
2月14日	「アレルギー物質を含む食品の検査」	更新
2月22日	英字略語集(ABC順)	更新
2月25日	横浜市におけるインフルエンザ等の流行情報(その14)	更新
2月26日	麻しん(はしか)の流行について(3)	更新
2月28日	高病原性鳥インフルエンザ(HPAI)の発生状況	追加
2月28日	衛生研究所における食品の苦情対応事例 - 薬品臭等に関する苦情 -	追加
2月29日	横浜市におけるタミフル耐性インフルエンザウイルスの検出について	追加

【 感染症・疫学情報課 】